

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第 2 回会合 議事概要

1. 開催日時

令和 3 年 5 月 24 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 開催場所

気象庁 13 階会議室 7

※Microsoft Teams による web 会議を併用

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 概要

下記の議題について検討を行った。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた取組み状況の進捗状況について

- 線状降水帯の予測精度向上に向けて、気象庁は 2030 年に向けた中長期的な計画に沿って、観測の強化・予測の改善・情報の改善を推進していくことが重要。
- 海上からの水蒸気の流入を正確に把握することは、線状降水帯の発生する環境場として重要であるので、全球衛星測位システム（GNSS）を利用した船舶による水蒸気観測や船舶からの高層気象観測に期待している。また、これらの観測の有効性について事後に検証をするべきである。
- 赤外サウンダによる水蒸気の 3 次元情報は降水システムの予測に有効であり重要と考えられるので、次期気象衛星の整備に向けた検討を着実に進めていくことを期待する。
- アメダス湿度計による地上付近の水蒸気量の観測は数値予報の精度の向上が期待できる。また、二重偏波レーダーを活用することによって雲に関する詳細な情報がわかることから、数値予報モデルの改善につながることを期待できる。これらについて着実に取り組んでいくべきである。
- 線状降水帯は局所的な降水現象であるため、場所によって危険度が全く違うこと

も考慮し情報を届けることが重要であることから、丁寧な情報発信や説明が必要と考える。情報の出し方については、「防災気象情報の伝え方に関する検討会」の検討結果を踏まえて適切に実施して欲しい。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた学官連携の方策について

- 産官学の連携は重要であり、事例検討会や気象庁の問題意識を大学側に共有する場を設定するのは重要である。
- このような検討や議論の場については、若手の研究者等を含めて、早めに人選をして開催すべきである。
- こうした枠組みにおいて、数値予報の格子点値（GPV）を大学等の研究者に提供してもらえると、研究者も様々な事例について検証することができる。その検証結果を気象庁へフィードバックすることも可能である。
- 数値予報資料共有 web は非常に有用で重要だが、さらにリアルタイム性を向上させたり、線状降水帯の発生要因として注視すべき物理量も研究の進捗を踏まえて閲覧できるようにするなど、一層の工夫の余地がある。

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第2回会合 出席者

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ 委員（外部有識者）

- | | | |
|---|---------------------|--------------------|
| ○ | さとう まさき
佐藤 正樹 | 東京大学大気海洋研究所 教授 |
| | いとう こうすけ
伊藤 耕介 | 琉球大学理学部物質地球科学科 准教授 |
| | いとう じゅんし
伊藤 純至 | 東北大学理学研究科 准教授 |
| | かわむら りゅういち
川村 隆一 | 九州大学理学研究院 教授 |
| | しみず しんご
清水 慎吾 | 防災科学技術研究所 主任研究員 |
| | たかやぶ ゆかり
高数 縁 | 東京大学大気海洋研究所 教授 |
| | たけみ てつや
竹見 哲也 | 京都大学防災研究所 教授 |
| | つぼき かずひさ
坪木 和久 | 名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授 |
| | よしむら けい
芳村 圭 | 東京大学生産技術研究所 教授 |

(○：主査、敬称略、主査以外は五十音順)

気象庁出席者

- | | |
|--------------------|-------------|
| よこた ひろのぶ
横田 寛伸 | 総務部参事官（技術） |
| いしだ じゅんいち
石田 純一 | 情報基盤部数値予報課長 |
| はせがわ まさき
長谷川 昌樹 | 情報基盤部気象衛星課長 |
| くろら りゅうた
黒良 龍太 | 大気海洋部予報課長 |
| やすだ たまき
安田 珠幾 | 大気海洋部気候情報課長 |